

さぬき市地域公共交通計画〔概要版〕

1. 地域公共交通計画策定の背景

(1) コミュニティバス運行の経緯

- 合併前は大川バスの乗合路線バスの他、津田町福祉バス、志度町巡回バスが運行
- 合併後、それぞれの旧役場に別々の機能を残す「対等合併/機能分散型」の行政システムを踏まえ、合併後の旧町間の連携を図ることを目的としたバス交通の導入について議論がなされ、平成 15 年 4 月 1 日にさぬき市コミュニティバスを新設
- 運行開始から約 15 年が経過し、様々な見直しを実施しながら現在に至っているが、利用者は平成 19 年をピークに減少傾向
- 令和 2 年 11 月 1 日から、再編案に基づき実証運行実施

(2) 市民ニーズ

- 「第 2 次さぬき市総合計画に係る市民アンケート」においても公共交通網の充実に関する高い優先度
- コミュニティバスの運行されていない自治会からの買物・通院の足として、公共交通の強い要望
- 利用者の約 7 割がさぬき市民となっているさぬき市民病院への各地域からのアクセス利便性の確保
- 交通不便地域における足の確保、高齢化による運転免許返納、高校生等の通学時バス転換需要など、新たな需要増の見込み

(3) まちづくりとの整合

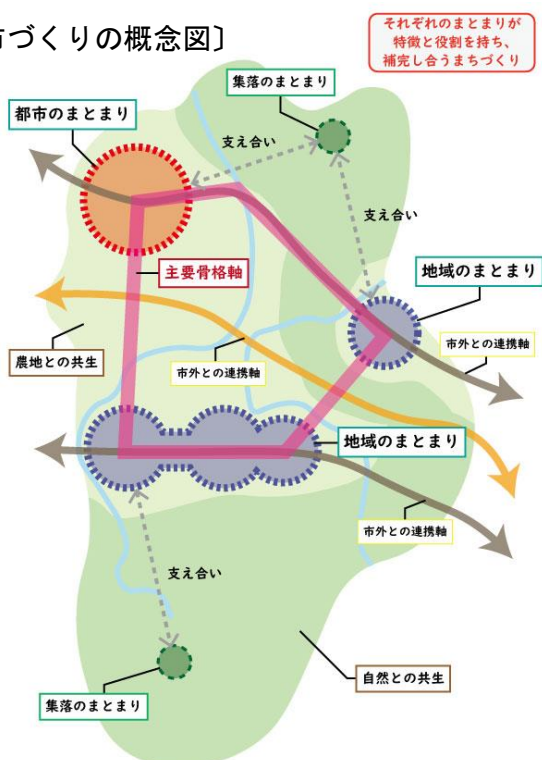
- 「第 2 次さぬき市都市計画マスタープラン」および「立地適正化計画」など、新たなまちづくり計画の改定時期と重なっていることから、新たな将来都市構造や土地利用誘導と公共交通との整合性が必要
- 各拠点で役割や市街地規模、市民ニーズが異なるため、拠点に機能を持たせ、地域の特長を活かせるよう都市構造を創出し、それらの拠点を一体的に繋ぐ公共交通ネットワークが必要

【都市づくりのイメージ】

(第 2 次さぬき市都市計画マスタープラン)

沿岸部、山間部、平野部それぞれの暮らしを守り 互いに補完しあう暮らし輝く コシのあるまち
～しびれるふるさと エレキテル コミュニティ～

〔都市づくりの概念図〕



〔将来都市構造図〕



2. さぬき市が目指す地域公共交通のすがた

【第2次さぬき市総合計画】

■まちの将来像

自然豊かでいきいき 笑顔あふれて快適に
みんなで暮らす ふるさとさぬき

■まちづくりの基本理念

守る つなぐ 進化する

【まちづくり計画の動向】

第2次さぬき市都市計画マスタープラン

立地適正化計画

【解決すべき課題】

- さぬき市コミュニティバスの見直しと交通空白不便地域の解消
- 高齢化により増加する交通弱者の移動手段の確保
- 高齢者の買物・通院の重要な足となる公共交通の維持
- 市民の生活パターンに対応した利用しやすいサービス水準の検討
- 鉄道・路線バスを利用した地域内外移動の円滑化、交通結節機能の強化
- タクシーの活用（乗客ニーズに応じた安全・安心な輸送手段の維持）
- 商業活性化・観光・福祉事業との連携
- 行政負担と受益者負担の適正化

【さぬき市地域公共交通計画で目指す将来像】

安全・安心・快適に暮らすための持続可能な公共交通網の実現

- デマンド交通の導入は、検討課題（各社共同運行による運行エリア決定時の不公平感、サービスに対する費用対効果等）が多く短期的な導入は難しい

【当面の目標】

- ・さぬき市コミュニティバスは、市民生活に役立ち、かつ、二次交通の役割をしっかりと担えるよう「買物・通院・通学に役立つコミュニティバスへの転換」を目指して再編する。

買物・通院・通学に役立つコミュニティバスへの転換

【中・長期的な目標】

- ・さぬき市コミュニティバス再編を踏まえつつ、それでも残る山間部等の交通空白・不便地域について、地域の実情に合わせ新たな交通システムの導入を目指す。

さぬき市コミュニティバスを補完する、地域の実情に応じた交通システムの構築

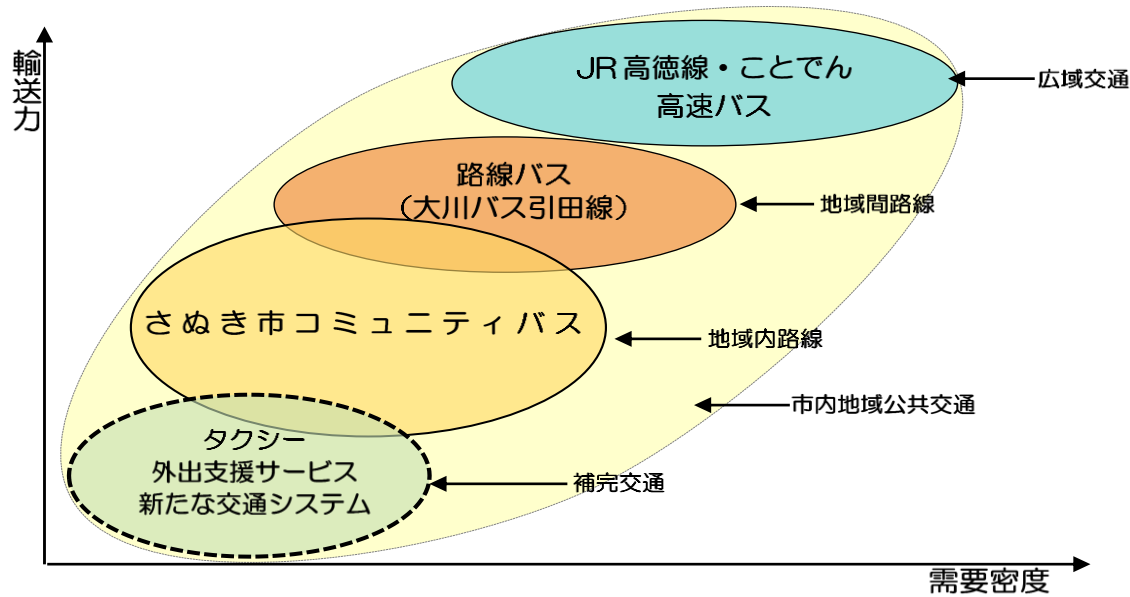
- 田園居住ゾーン：主要バス停までのラストワンマイル対策
- 中山間部：地域主体による持続可能な交通システムの導入

3. 望ましい公共交通ネットワークのあり方

■ 地域公共交通システムの機能分担

機能分類			性格・役割	
広域交通	鉄道 高速バス		○都市間連絡の骨格となる広域公共交通軸 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	○JR 高徳線 ○ことでん志度線・長尾線 ○高速バス
	地域間路線		○地域間の骨格となる東西交通軸 ○通勤・通学、買物など多様な目的に対応	○大川バス（引田線）
市内地域公共交通	地域内 路線	幹線	○都市拠点と生活拠点を連絡、市街地の連携・一体化 ○広域交通・地域間交通への接続	○さぬき市コミュニティバス（バス）
		支線	○生活拠点と集落拠点を連絡 ○幹線路線を補完	○さぬき市コミュニティバス（ジャンボタクシー）
	補完交通		○地域内路線等を補完し、主に高齢者・交通弱者のために少量個別輸送（ドアトゥドア）を担う移動手段	○タクシー ○新たな交通システム ○民間送迎サービスの活用 ○外出支援サービス 等
交通結節点			○上記地域公共交通システムの連携拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報の提供等の機能強化を図るべき拠点	○JR 志度・ことでん志度 ○さぬき市民病院 ○ムーミー志度店 ○津田出張所 ○大川バス本社前（長尾駅） ○日盛の里 等

■ 輸送力と需要密度との関係による市内地域公共交通の位置づけ（役割分担）



4. 計画期間

・第2次さぬき市総合計画の計画期間との整合性を図り、計画期間は2021年度から2026年度までの6年間とする。

年度	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
第2次さぬき市総合計画	2026年度まで						
第2次さぬき市総合計画 基本計画	中期計画			後期計画			
さぬき市地域公共交通計画	策定	6年間（2026年度まで）					

5. 目標達成のために実施する事業

基本方針	施策の方向性	実施事業	実施期間					
			2021	2022	2023	2024	2025	2026
【基本方針1】 将来都市構造を支える地域公共交通ネットワークの形成	《施策の方向性1》 市内各拠点間をつなぐ公共交通の機能強化	①さぬき市コミュニティバスの見直し・再編	本格運行（随時見直し）					
		②小規模分散型需要に見合ったデマンド交通システムの導入（継続検討）	導入検討				実施	
	《施策の方向性2》 鉄道駅や交通結節点の機能強化	③鉄道駅・集客施設・主要バス停等におけるバス待ち環境の整備	検討		実施			
		④JR・ことでん駅周辺等におけるパークアンドライドの推進	利用促進					
【基本方針2】 商業活性化・観光・福祉事業との連携	《施策の方向性3》 商業・観光活性化との連携	⑤『電子マネーカード』等による運賃のキャッシュレス決済導入検討		調整・協議			実施	
	《施策の方向性4》 高齢者等の外出支援推進	⑥「妊婦さん＆地域公共交通応援チケット」の継続	継続					
		⑦高齢者等福祉タクシー助成事業の継続	継続					
		⑧バス運行ダイヤに合わせた健康イベント等の実施	実施					
【基本方針3】 地域輸送資源の総動員による地域公共交通の構築	《施策の方向性5》 タクシーの活性化	⑨タクシーの車両およびノウハウの活用	検討					
	《施策の方向性6》 既存ストックの活用	⑩施設送迎車両やスクールバス等の活用			検討		実施	
【基本方針4】 地域住民の協力による地域特性に応じた多様な生活交通の実現	《施策の方向性7》 交通不便地域への対応	⑪バス停までのラストワンマイル対策のための新モビリティ導入検討			検討		実施	
	《施策の方向性8》 交通空白地域における地域が関わる新たな交通システムの導入	⑫地域住民主体の取り組みによるコミュニティ交通の導入	検討		実施			
【基本方針5】 利用促進による潜在需要の掘り起し	《施策の方向性9》 高齢者等、自家用車を使えない人が気軽に外出できる環境づくりの推進	⑬わかりやすい公共交通情報の一元化（公共交通マップ、専用HPの作成）	実施					
		⑭案内表示、トータルデザインの見直し（香川大学との連携）	検討	実施				
	《施策の方向性10》 乗り継ぎ抵抗の改善	⑮わかりやすい乗り継ぎ、バス運賃体系の導入	乗り継ぎバス停追加		検討		見直し	
	《施策の方向性11》 モビリティ・マネジメントの実施（啓発、機運づくり）	⑯市民（高齢者等交通弱者）等によるモビリティ・マネジメントへの取組	実施					
		⑰買物・通院等のバスを利用した外出モデルルートの提供	作成		配布周知			
		⑱高校生の運賃支援（生徒手帳提示により運賃を半額に減額）の継続	継続					
	《施策の方向性12》 家族で公共交通に親しめる施策の実施	⑲家族で楽しみながら参加できるバスや鉄道の乗り方教室等の開催	定期的に実施					
		⑳ファミリー向け割引制度等の導入			検討		実施	